

花粉の少ない スギ品種が 増えました

来年のスギ花粉は？

秋も深まっていくころには、スギの雄花が緑色から褐色に変化して、目につきやすくなってきます。そうなると、そろそろ来年春のスギ花粉情報が発表される時期となってきました。

一般に、スギの雄花は夏の日照時間が長く、気温が高く雨の少ない年に多くなると言われていますが、前の年に着花量が少なければ、着花量が多くなり、予想を狂わせる原因となっています。このことから、スギ花粉情報は気象データだけでなく、雄花を観察しやすくなった秋にスギ林を観察し、気象による予測を修正した上でスギ花粉情報が出されています。

それでは、来年のスギ花粉飛散量はどうなのでしょう。今シーズンのスギの木に着いている雄花の量を見てみると、正確に調査した訳ではないのですが、多いように思えます。このスギ花粉飛散量を減少させる

一つの方法として、花粉の少ないスギの普及が目されています。

今年3月に、花粉の少ないスギを新たに10品種開発したと、独立行政法人林木育種センター（以下、育種センター）が発表しました。これによって、福島県を除く東北5県に新潟県を合わせた6県（この6県が東北育種基本区と呼ばれる林木育種センターの管轄単位となります）で選抜された花粉の少ないスギは21品種となりました（表1）。

今回、この花粉の少ないスギ苗木産に向けた岩手県での取組を紹介します。

花粉の少ないスギ選抜の経緯

岩手県がスギ花粉症対策として花粉の少ないスギを探し始めたのは平成6年度でした。これまでに植栽されてきた林業用品種を数年間調査観察し、再現性を確認したうえで、雄花着花特性を取りまとめたのが平成14年度のことでした。このとき岩手県が花粉の少ないスギとした品種は、①雄花の着花量が平均的なさし木苗と比べて、3分の1以下であること、②樹高成長が平均的なさし木苗より優れていること、③それ以外に林業用種苗として優れた特性があること、という条件を備えたもので

した。花粉が少ないという特性だけでは、使ってもらえない、つまり対策にならないと考えたからです。その結果選ばれたのが、岩手県11号、水沢6号、上閉伊14号の3品種でした。育種センターでは、岩手県からの推薦を受け、独自の調査も加えて、まず岩手県11号、その後も調査を継続し、平成19年度に水沢6号を花粉の少ない品種に決定しました。

花粉の少ないスギ苗木生産に向けて花粉の少ないスギ品種を苗木とし

て供給するには、さし穂を採取する採穂園を整備する必要があります。岩手県が選んだ3品種のうち、上閉伊14号は育種センター東北育種場の調査では、他の2品種より着花が多く、選定されませんでした。しかし、平成14年度当時から採穂供給可能であったことから、積極的に販売しております。他の花粉の少ないスギ品種の供給量が多くなるまでのつなぎの品種といえるでしょう。

現在、岩手県選抜の品種のほかに、青森・秋田県選抜の品種も採穂

表-1 東北育種基本区選抜の花粉の少ないスギ品種

選抜地	品種名	選抜年度
青 森	南津軽5号	14
	増川6号	19
	碓ヶ関7号	14
	黒石5号	14
	黒石6号	19
岩 手	岩手県11号	14
	水沢6号	19
秋 田	上小阿仁107号	19
	秋田103号	14
	北秋田1号	14
	由利11号	14
	仙北1号	19
	雄勝3号	19
	雄勝11号	19
山 形	田川4号	14
新 潟	高田1号	19
	村上市2号	14
	十日町市1号	14
宮 城	玉造8号	19
	宮城3号	19
	刈田1号	14

園に導入する準備をしています。平成20年7月現在、岩手県の採種圃園にある花粉の少ないスギは表2のとおりです。岩手県11号、水沢6号の本数が、多くなっており、穂木の生産が待たれているところです。

花粉の少ないスギ供給状況

花粉の少ないスギを、平成19年度に採種した本数と、それを今年さし付けして、発根した苗の本数を表2の右側に示してあります。

採穂量を見ると、岩手県11号や北秋田1号が多くなっていますが、このほとんどは採種圃産ではなく、採種圃にあるものを強めに剪定し、穂が多くとれるようにして採種したものです。採種圃は植栽してから日が浅く本格的な採穂はまだできていません。

平成20年度得苗木本数に示した数のほとんどが、来年春に苗木生産者に販売される苗の数になります。

あと2～3年で採種圃からの生産開始

表2を見ると、さし付け数に占める得苗木本数の割合、つまり発根率がとても低いことが判ります。これは、採種圃から採種しているためと考えられています。やはり採種圃は種をとる

表-2 岩手県の採種圃園にある花粉の少ないスギ品種の本数

選抜地	品種名	採種圃本数	採種圃本数	平成19年度採穂本数	平成20年度得苗木本数(A規格)
青森	黒石5号	45		11	
	黒石6号		6	300	20
岩手	岩手県11号	358	47	1,612	600
	水沢6号	107	10	21	
秋田	北秋田1号		20	2,365	281
宮城	玉造8号	58		40	
	宮城3号	10		34	
計		578	83	4,383	901

注) 採種圃園本数は、平成20年7月現在の数字
平成20年度得苗木本数(A規格)は発根量の多い苗の本数



写真1 順調に成長している採種圃の岩手県11号

ための場所で、さし木用穂木をとるのは、採種圃からの方が良いようです。平成14年度以降に採種圃に植栽した花粉の少ないスギ品種は、順調に生育しています。写真1は、採種圃の岩手県11号の様子です。これから採種木として適した形にしていく

樹形誘導と呼ばれる剪定を繰り返して、2～3年後には、多くの穂木を生産してくれるものと期待しています。そうなれば、採種本数と発根率も上がり、より多くの花粉の少ないスギ品種を供給できるものと考えています。

現在、採種圃からの採穂や穂の長さの検討、さし付け用土の検討と、花粉の少ないスギを1本でも多く供給するために様々な取組を行っています。

林業技術センター研究部

蓬田 英俊